

施策マネジメントシート1(20年度目標達成度評価)

作成日 平成 21 年 6 月 23 日
更新日 平成 21 年 9 月 9 日

総合計画体系	政策No.	4	政策名	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり	施策統括課	学校教育課	施策統括課長名	中島 正剛
	施策No.	19	施策名	義務教育の充実	関係課	生涯学習課、人権啓発教育課、農政課		

1 施策の目的と指標

① 対象(誰、何を対象としているのか) * 人や自然資源等
児童・生徒

② 意図(対象がどのような状態になれば良いのか)
知・徳・体・食のバランスが整い、生きる力が身についている

成果指標の測定企画(実際にどのように実績値を把握するか)

A~Fの指標は全て学校教育課にて把握可能。

C:問題行動(いじめ、暴力等)の発生件数は、年間の問題行動報告書より抽出。

E:朝食を欠食する児童・生徒の割合

16年度:対象は西合志の小中学校生徒。毎日朝食を食べていない子どもの割合。157人/2,939人。

17年度:対象は市内7校の小学校1~3年生。毎日朝食を食べる習慣がない子どもの割合。81人/1,613人。18年度133人/1,532人(県就学前教育振興・充実に係る実態調査より)

③ 対象指標(対象の大きさを表す指標) * 数字は記入しない

名称	単位
A 児童生徒の数	人
B	
C	

④ 成果指標(意図の達成度を表す指標) * 数字は記入しない

名称	単位
A 標準学力検査において全国標準値を50とした場合の各学校の総合学力の平均値	偏差値
B 不登校の出現率(=不登校生徒数/全児童・生徒数)	%
C 問題行動(いじめ、暴力等)の発生件数	件
D 体力テスト結果で「A~C」と判定される児童生徒の割合	%
E 朝食を欠食する児童・生徒の割合 ※毎日朝食を摂る習慣がない児童の割合	%
F 学校給食に地場産物を使用する割合(=給食センターの地場産物の使用量/全使用量)	%

2 指標等の推移

指標名	単位	数値区分	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	
対象指標	A 人	見込み値				5,101	5,180	5,210	5,270	
		実績値	5,096	5,029	5,075	5,101	5,172			
	B	見込み値								
		実績値								
	C	見込み値								
		実績値								
成果指標	A 偏差値	目標値				52.5	53.0	53.5	54.0	
		実績値	51.8	51.7	52.1	52.6	53.1			
	B %	目標値				0.7	0.7	0.7	0.7	
		実績値		1.1	0.7	1.0	1.3			
	C 件	目標値				12	10	8	6	
		実績値	4	3	12	12	10			
	D %	目標値				73.0	73.0	75.0	75.0	
		実績値			70	63.5	70.7			
	E %	目標値				8.5	8.0	7.5	7.0	
		実績値	5.3	5.0	8.7	7.7	5.9			
	F %	目標値				23.0	23.0	23.0	24.0	
		実績値	21.2	19.5	23.8	22.9	28.9			
事務事業数		本数			53	53	53	53		
施策コスト	事業費	国庫支出金	千円			209,196	251,960	219,663	203,615	155,545
		都道府県支出金	千円			200	485	300	213	150
		地方債	千円			568,429	509,205	693,059	336,900	501,400
		その他	千円			2,214	2,227	2,346	2,346	0
		繰入金	千円			0	0	0	0	0
		一般財源	千円			722,983	569,265	642,999	441,279	292,594
	事業費計(A)		千円	0	0	1,503,022	1,333,142	1,558,367	984,353	949,689
	(A)のうち指定経費		千円			76	556,074	894,695	4,813	4,848
	(A)のうち時間外、特殊勤務手当		千円			76	0	0	4,636	4,636
	人件費	延べ業務時間	時間			57,793	64,140	64,140	60,603	60,642
人件費計(B)		千円			231,172	256,559	256,559	242,410	242,569	
トータルコスト(A)+(B)		千円	0	0	1,734,194	1,589,701	1,814,926	1,226,763	1,192,258	

基本計画期間における施策の目標設定とその根拠(水準の理由と前提条件)

A:標準学力検査値の目標値は、18年度の研究指定校偏差値の平均を目標として、平均より低い学校に県や市の研究指定を行ったり、指導力向上のための学力向上委員会等の取り組みや学校での朝自習等の強化を図ることにより学力の向上が出来るとして2.4増を目指して54を設定した。
B:不登校の出現率の目標値は、教育相談員と学校に配置している教育活動指導助手との連携の強化や不登校対策連絡会議等を十分活用することにより現状を維持できるものと考え、22年度も0.7%とした。
C:問題行動では、10年くらいの周期で中学校が荒れるパターンがあることを考慮し、目標値は、学校での取り組みの強化や生徒指導連絡会議を開催し各学校共通の理解や取り組みを行うことで、22年度は6件と設定した。
D:18年度体力テストの判断評価表では、A,B,Cランク(平均値以上)の割合が70%であった。目標値は、校長会や教務主任会議、休み時間等学校での取り組みを強化することにより22年度は5%増の75%に設定した。
E:欠食の割合では、調査の基準や設問内容等により比較は難しいが、18年度調査で8.7%であったことを考慮すると、目標値は、学校で取り組んでいる食育の推進や17年から実施されている「早ね早起き朝ごはん」運動のさらなる展開を図ることにより、22年度目標値を7%に設定した。
F:地産地消では、自校方式の学校での把握は出来ていないので、給食センターの資料となる。実績値は、地産地消の教育や生産者組合の強化を図ることで現状を維持できるものと考え24%を設定した。

基本計画期間における施策の方針

- ・知、徳、体、食のバランスをはかり、生きる力を身に付ける。
- ・問題行動(いじめ、暴力等)の発生を抑制する。
- ・標準学力検査の平均値をさらに高める。

全庁横断課題『子育て支援日本一のまちづくり』との連携

- ・施策全体全て関連する。

施策マネジメントシート2(20年度目標達成度評価)

3 施策の特性・状況変化・住民意見等

<p>① この施策の役割分担をどう考えるか(協働による住民と行政の役割分担)</p> <p>ア)住民(事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者では自宅学習の徹底と生活リズムの確立(早寝早起き朝ごはん運動、ノーテレビデー) ・地域では学校で習うことのできない地域文化・芸能等の伝承と子どもの見守りボランティアの実施、強化 ・地域住民やコミュニティでは学校教育への協力(ゲスト・アシスタントティーチャー等) ・PTA活動の活性化 <p>イ)行政の役割(市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校では、こどもの学力・体力の向上と豊かな心の育成 ・市では教育環境の整備(学校建築や大規模改造等)、市雇用の学校教育活動指導助手、介護補助員、教育相談員の充実、教師の資質や児童生徒の生きる力を高める研究指定校の指定、市施策の浸透のための校長会議、教頭会議、教務主任会、研究主任会等の実施、いじめ、不登校問題への対応のための生徒指導連絡会議、いじめ不登校対策委員会の定期的開催 ・県では、教職員のレベルアップのための研修等 	<p>② 施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は今後どのように変化するか?(平成22年度を見越して)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育基本法が18年12月に改正された。同法の施行により、関係法令や学習指導要領、教育振興基本計画の策定(見直し)等が進められる。 ・19年4月から特殊教育が特別支援教育になった。 ・地域によって児童生徒の増減が進み、教室不足になる学校と空き教室が増える学校が出てくる。 ・学校給食の調理場の見直し(センター方式、自校方式)について検討を行っている。 ・学習指導要領が改定され、小学校が21年度から、中学校は22年度から新学習指導要領に順次移行し、小学校は23年度から、中学校は24年度から本格実施となる。 ・合志市の教育基本計画が20年3月に策定され、20年4月から教育基本計画に基づき、取り組みを始めている。
<p>③ この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援を要する児童生徒の保護者から、支援体制充実の要望が上がっている。 ・学校職員からは、教育活動指導助手の配置増や部活動補助金、各種大会等出場補助金の増額の要望が上がっている。 ・議会から、学校給食の調理場の見直し(センター方式、自校方式)についての決議がなされ、検討すべき取り組みの要請を受けた。 ・議会から、市内小中学校での食育のあり方や環境教育についての質問があった。 ・市民ワークショップで「旧西合志町の学校給食は、各学校に給食施設のある自校式で、子どもの食習慣、味覚の育成、食文化に貢献している」「小中学校の配置が悪い」「義務教育のレベルが、熊本市に劣る」「教育委員会の活動情報が少なく現状が分かりにくい」「生きる力の教育が不足している」「教員の充実。補助教員を増やしたり、教育予算を充実させ、質を向上させる」などの意見があった。 	

4 施策の評価

<p>① 施策の目標達成度(20年度目標と実績との比較)</p> <p>A → ○【 標準学力検査において全国標準値を50とした場合の総合学力の平均値 】</p> <p style="padding-left: 20px;">: 目標値53.0に対し実績値53.1であり、目標を達成できた。</p> <p>B → ×【 不登校の出現率(不登校生徒数/全児童・生徒数) 】</p> <p style="padding-left: 20px;">: 目標値0.7%に対し実績値1.3%であり、達成度は53.8%であった。</p> <p>C → ○【 問題行動(いじめ、暴力等)の発生件数 】</p> <p style="padding-left: 20px;">: 目標値10件に対し実績値10件であり、目標は達成できた。</p> <p>D → △【 体力テスト結果で「A～C」と判定される児童生徒の割合 】</p> <p style="padding-left: 20px;">: 目標値73.0%に対し実績値70.7%であり、達成度は96.8%であった。</p> <p>E → ○【 朝食を欠食する児童・生徒の割合 】</p> <p style="padding-left: 20px;">: 目標値8.0%に対し実績値5.9%であり、目標を達成できた。</p> <p>F → ○【 学校給食に地場産物を使用する割合(給食センターの地場産物の使用量/全使用量) 】</p> <p style="padding-left: 20px;">: 目標値23.0%に対し実績値28.9%であり、目標を達成できた。</p> <p style="margin-top: 10px;">※○:目標達成 △:目標をほぼ達成(-5%程度) ×:目標を未達成</p>	<p>※左記の背景として考えられること(根拠となる実績値、判断理由など)</p> <p>A:平成16年度から順調に成果として実績値が向上しており、研究指定の実施率の増加(前年比129%)や研究指定校の充実がその要因と考えられる。</p> <p>B:出現率が増加している要因としては、特に中学校入学時に見られることから、中1プロブレムによる不適応が主因と考えられる。</p> <p>C:各学校の生活指導・生徒指導の質の向上が見られる一方、家庭生活に乱れが見られる。</p> <p>D:体育の授業の中での補強運動など年間計画に位置づけられ、それが実践されてきている。さらに共通実践としての体力向上への取組が必要である。運動場の整備や業間体育の取組等も成果となっている。</p> <p>E:PTA例会や学校からのお便り等で食育の重要性や家庭での食生活の実態などの情報提供に努めてきた。</p> <p>F:栄養士の創意工夫のもと、献立に使用する食材の見直し等による成果と合わせて、仕入れ業者とのバランスを取りながら今後も地産地消の安定供給に努めたい。</p>
<p>② 施策の振り返り(施策の方針、全庁横断課題との連携の達成度等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力の向上に関しては、全体的に成果指標が順調に伸びており、施策全体の評価としては概ね良い。知、徳、体、食のバランスの取れた生きる力が身に付いた児童・生徒の育成に関しては、今後、意図を見据えながら進めていく必要がある。「義務教育の充実」が最重要施策の1つとして掲げられているので、今後その施策の方針を念頭に、各施策の目標達成に推進していきたい。 ・事務事業貢献度評価の結果では、平成20年度施策の成果を向上させるために最も貢献した事務事業として、小中学校教育活動指導助手(員)配置事業及び小中学校知能・標準学力検査事業があげられ、特に貢献した事務事業には小中学校教育振興用資器材購入事業、外国青年招致事業が、貢献した事務事業には小学校英語指導講師配置事業、特別支援教育推進事業及び学校研究指定校助成事業が位置づいた。 	
<p>③ 施策の課題(基本計画期間を見据えて、どのような課題を解決していかなければならないか)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校傾向にある児童生徒の早期発見、早期対応に努める。 ・小中連携による支援の必要な児童生徒への対応に取り組む。 ・積極的な生徒指導の推進と規範意識の向上を図る。 ・新学習要領のねらいを踏まえた研究授業の推進に取り組む。 ・体力向上のための共通実践化を図る。 	

施策マネジメントシート2(20年度目標達成度評価)

5 施策の20年度結果に対する審査結果

①政策推進本部での指摘事項(施策目標達成度評価結果報告を受けて・・・平成21年 7月 1日)

- ・不登校の理由について、その背景には生徒指導問題や保護者の養育問題並びに発達障害等によるものが考えられるが、男女差は少なく、県内での本市の状況は平均程度であり、少しずつ増えている。一人ひとりのニーズへの対応が重要であり、適応指導教室や中学校での取り組みを強化すること。
- ・不登校は、中学校1年生から増加割合が高くなり、中1プロブレムと呼ばれている。原因として小学校は35人1学級、中学校は40人1学級で、大きな学級になった時の集団になじめない不安等から不登校につながったり、小学校の指導の違いなどが影響していると考えられる。熊本市は中1を35人学級としており、中1のみを35人学級にした場合の課題(教室、教師)など、中学校現場での研究が必要と考えられるが、合志市では適応指導教室事業や介護補助員配置事業に力を入れており、継続しながら検討をすすめること。
- ・学力の向上は、次年度の目標値は53.5であり、達成のためには他の指標向上が不可欠で他の取組と密接に関連しており、基本事業それぞれの底上げが必要である。最重点施策に位置付けられており、強力に取り組んでいくこと。
- ・教育委員会における行政評価について、必要に応じた報告を行っているが、今後、教育行政の施策評価、事務事業評価における教育委員会の位置づけについて検討が必要である。市総合政策審議会には委員として教育委員が参画しており、学校評価制度(学校教育法)との整合も含め、教育委員会の関与の仕方は課題である。

② 総合政策審議会での指摘事項(平成21年 8月 5日、8月10日、8月26日、9月3日まとめ)

- ・不登校の発生については、様々な事由があるが、専門家の助言を得ながら、個々に丁寧な対応を実施する必要がある。特に、中学1年期に多い中1プロブレムの解決策として、35人学級制への予算措置や具体的な対策を検討する必要がある。
- ・徳育の推進の中に、問題行動の発生や不登校の問題等が含まれているが、別の基本事業として取り組んでいく必要があり、次期基本計画では、基本的な柱としての検討が必要である。
- ・児童・生徒の活用能力や創造力を伸ばす教育方法を工夫、検討する必要がある。

③ 議会の決算審査における指摘事項(平成21年10月 2日)

- ・小中一貫性を持った教育制度の研究をすべき。
- ・成果指標Fについて・・・22年度の目標値を実績値以上に修正すべき(40%程度)
- ・ 〃 Cについて・・・生徒だけでなく教師の統計も取るべき。
- ・ 〃 B・Cについて・・・学校だけに頼らず、家庭教育の大切さも検討すべき。
- ・学校給食のあり方については、議会の決議を受け、今後あるべき姿を検討すべき。
- ・教育委員会の充実を図るため、定員増も検討すべき。

6 次年度に向けた取り組み方針

● 政策推進本部 平成22年度合志市経営方針(平成21年10月23日)

- ①児童生徒の学力の向上を目指して、学校が地域・家庭と連携を図りつつ、研究指定校制度を活用し、教職員一人ひとりの資質向上を図る。
- ②学校給食のあり方については、基本方針に基づいて具体的な移行計画を策定する。

基本事業名	61 学力の向上	基本事業担当課	学校教育課
-------	----------	---------	-------

対象	児童・生徒	意図	学力が身につけている
----	-------	----	------------

成果指標名	単位	数値区分	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
A	標準学力検査において全国標準値を50とした場合の各学校の総合学力の平均値	目標値				52.5	53.0	53.5	54.0
		実績値	51.8	51.7	52.1	52.6	53.1		
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							

8. 基本計画期間における基本事業の目標設定(水準設定の理由と前提条件)

標準学力検査値の目標値は、18年度の研究指定校偏差値の平均を目標として、平均より低い学校に県や市の研究指定を行ったり、指導力向上のための学力向上委員会等の取り組みや学校での朝自習等の強化を図ることにより学力の向上が出来るとして54.0を設定した。

9. 基本事業の20年度の振り返り(目標達成度評価)と22年度に向けての課題

平成20年度実績値は、小中学校教育活動指導助手配置事業の継続により、目標値をわずかながら上回ることが出来たとと言える。また、教職員の指導力向上のための各種研修事業により市全体の教育力の底上げとなっている。平成22年度も引き続き人的資源の投入を確保しながら、指導力の向上の取り組みを更に充実していきたい。

基本事業名	62 徳育の推進	基本事業担当課	学校教育課
-------	----------	---------	-------

対象	児童・生徒	意図	社会規範が身につけている
----	-------	----	--------------

成果指標名	単位	数値区分	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
A	問題行動(いじめ、暴力等)の発生件数	目標値				12	10	8	6
		実績値	4	3	12	12	10		
B	不登校の出現率(=不登校生徒数/全児童・生徒数)	目標値				0.7	0.7	0.7	0.6
		実績値		1.1	0.7	1.0	1.3		
		目標値							
		実績値							

8. 基本計画期間における基本事業の目標設定(水準設定の理由と前提条件)

問題行動では、10年くらいの周期で中学校が荒れるパターンがあることを考慮し、目標値は、学校での取り組みの強化や生徒指導連絡会議を開催し各学校共通の理解や取り組みを行うことで、22年度は6件と設定した。
 ・不登校の出現率の目標値は、教育相談員と学校に配置している教育活動指導助手との連携の強化や不登校対策連絡会議等を十分活用することにより、22年度は0.6%とした。

9. 基本事業の20年度の振り返り(目標達成度評価)と22年度に向けての課題

平成20年度の問題行動発生件数は、目標値と同じであり目標を達成したと言える。しかし、平成20年度の不登校者数は2年連続して増加している。特に中1プロブレムによる不適応が課題として考えられるため、積極的な生徒指導の推進を図りながら規範意識を高め、さらには小中連携による、きめ細やかな手立てを行いながら取り組んでいきたい。

基本事業名	63 体育の推進	基本事業担当課	学校教育課
-------	----------	---------	-------

対象	児童・生徒	意図	健康な身体になる
----	-------	----	----------

成果指標名	単位	数値区分	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
A	体力テスト結果で、A～Cランクと判定される児童生徒の割合	目標値				73.0	73.0	75.0	75.0
		実績値			70.0	63.5	70.7		
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							

8. 基本計画期間における基本事業の目標設定(水準設定の理由と前提条件)

18年度体力テストの判断評価表では、A,B,Cランク(平均値以上)の児童生徒の割合が70%であった。目標値は、校長会や教務主任会議、休み時間等学校での取り組みを強化することにより22年度は5%増の75%に設定した。

9. 基本事業の20年度の振り返り(目標達成度評価)と22年度に向けての課題

平成20年度の実績値は、昨年度よりも改善したものの目標値には及ばず96.8%の達成率であった。しかし、運動場の整備や業間体育の工夫をはじめ年間計画に基づいた体育指導が実践されている。体力の向上を目指して教師が共通実践していくために市体育主任会等を通じて各学校に働きかけを行ってきたい。

基本事業名	64 食育の推進	基本事業担当課	学校教育課
-------	----------	---------	-------

対象	児童・生徒	意図	バランスのとれた食事が取れている
----	-------	----	------------------

成果指標名	単位	数値区分	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
A 朝食を欠食する児童生徒の割合	%	目標値				8.5	8.0	7.5	7.0
		実績値	5.3	5.0	8.7	7.7	5.9		
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							

8. 基本計画期間における基本事業の目標設定(水準設定の理由と前提条件)

欠食の割合では、調査の基準や設問内容等により比較は難しいが、18年度調査で8.7%であったことを考慮すると、目標値は、学校で取り組んでいる食育の推進や17年度から実施されている「早ね早起き朝ごはん」運動の更なる展開を図ることにより、22年度目標値を7%に設定した。

9. 基本事業の20年度の振り返り(目標達成度評価)と22年度に向けての課題

平成20年度は、目標値を達成し5.9%となった。朝食の大切さが次第に家庭に浸透していった結果と言える。しかし、未だ20人に1人以上が朝食を十分摂っていないことを考慮すると、22年度に向けては今後目標を高くして、具体的な取組を進めていく必要がある。

基本事業名	65 指導力の向上	基本事業担当課	学校教育課
-------	-----------	---------	-------

対象	教師	意図	指導力が身につく
----	----	----	----------

成果指標名	単位	数値区分	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
A 研究授業の実施率	%	目標値				100.0	110.0	120.0	130.0
		実績値			89.0	101.0	129.0		
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							

8. 基本計画期間における基本事業の目標設定(水準設定の理由と前提条件)

・研究授業の実施率は、学校規模などの状況により実施の難易の差は出るが、基本的には授業をしている教員がなるべく多くの研究授業を実施することが望ましい。
 ・目標値については、本年度を100%とし、研究指定を積極的に行うことにより、22年度を130%とした。

9. 基本事業の20年度の振り返り(目標達成度評価)と22年度に向けての課題

平成20年度は研究指定校の数も多く、積極的に研究授業を推進するような指導の成果もあり、129%という大幅な成果として結実した。各校での取り組みに差があることなど課題もあり数的な水準の向上の上に、さらに質的な向上を追及していくことも今後取り組むべき課題と考える。

基本事業名	66 施設の整備	基本事業担当課	学校教育課
-------	----------	---------	-------

対象	学校の施設	意図	適切な教育環境になる
----	-------	----	------------

成果指標名	単位	数値区分	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
A 耐震基準を満たした学校施設の割合	%	目標値				78.1	78.1	95.5	98.5
		実績値		68.1	73.7	92.8	92.1		
B 整備計画に基づく整備率	%	目標値			54.3	58.4	70.4	79.3	90.6
		実績値				63.4	70.8		
		目標値							
		実績値							

8. 基本計画期間における基本事業の目標設定(水準設定の理由と前提条件)

A・耐震診断は、現在未診断の4校(9棟)を発注しており、19年度には全校終了することとなるが、この4校については耐震不足と見込まれる。
 ・目標値については、その他の学校の老朽改修工事等施工配分を考慮し設定するが、19年度から20年度までは西合志中学校建築優先する。21年度は、西合志中学校の完成に伴い実績値が89.4%になるが、耐震不足と見込まれる9棟のうちの4棟を施工するとして95.5%を設定した。22年度も2棟を施工するとして98.5%を設定した。
 B・大規模改造工事については、19、20年度で南ヶ丘小学校を行い、21、22年度で西合志南小学校、西合志東小学校を計画しており、22年度の目標値を90.6%と設定した。

9. 基本事業の20年度の振り返り(目標達成度評価)と22年度に向けての課題

平成20年度は、西合志中学校建築及び南ヶ丘小学校の大規模改造工事が完了し、それぞれ目標値を上回っている。平成22年度も引き続き耐震化を中心に整備し、成果を挙げていきたい。